

田富小だより

明日25日で、子供たちの令和2年度は終わります。社会も学校も新型コロナウイルスの対応に追われた一年でした。多くの制約の中での学校生活でしたが、子供たちは新型コロナに負けることなく、一人一人心身共に成長しました。そんな子供たちの姿を間近で見られたことを、教職員一同本当にうれしく思っています。4月から一学年上がります。子供の育ちのため、「自分で」「ともに」「ために」を心に刻み、さらなる成長を目指して頑張ってもらいたいです。



私事ですが、この3月末をもって定年退職となります。校長として3年間、楽しく充実した時間を過ごさせていただきました。子供たち、保護者の皆様、地域の皆様、そして、ともに田富小の子供たちのために働いてきた先生方に心から感謝しています。本当にありがとうございました。学校は離れますが、これからも子供たちの健やかな成長を願っています。

子育ての最終目標は

子育てや教育の目指すべきゴールは、どこにあるのでしょうか。有名大学に入れ、一流企業に就職させることでしょうか。もしそうなら、教育は限られた一部の人のために行われるものになります。前にも紹介しましたが、「母親としての仕事は、その先の長い人生を周りの人たちを幸せにするように（我が子を）育てることです。」という高円宮久子様のお言葉が、保護者や教員の目指すべき方向を示してくれているように思います。周りの人を幸せにするためには、それだけの資質や能力をもたなければなりません。そして、その資質や能力は、自分自身を幸せにする力でもあるはずで、学力もそんな力のひとつですが、私たちが育てなければならないのはもっと広くて深い力です。

毎朝、子供たちが登校してくる通路を掃いていますが、きれいに掃いたつもりでも振り返るといくつかの小石が残っています。光の当たり方で見えるようになったのです。子供も同じで、いろいろな角度から見ることで今まで気づけなかったその子の良さや可能性が見えてきます。子育てに迷ったときは、「周りの人を幸せにする人に育てる」という視点から、我が子にどう接するか、どんな言葉をかけるかを考えてみてください。

卒業式

3月19日に卒業式が行われました。新型コロナの影響で、まだ以前のよ



うな卒業式はできません。しかし、限られた条件の中で、3名の担任を中心に全教職員の力を合わせ、子供たちにとって思い出に残る、小学校生活最後の授業となるように準備を進めてきました。卒業生の歌をあらかじめ録画して当日流すという措置をとった学校もあったと聞いています。しかし、私たちは子供たちの生の声にこだわりたいと考えました。大勢の人の前に立ち、緊張感と闘いながら返事をして卒業証書をもらったり、呼びかけや歌を歌ったりすることで、子供たちはまたひとつ成長すると考えるからです。6年生はもちろん、5年生もこれまでで最高の呼びかけと合唱を披露してくれました。本気になった子供の力のすごさを実感しました。



6年生の頬をつたう美しい涙は、私たち教職員に「先生」になったよろこびを感じさせてくれました。

た。後を引き継ぐ5年生の心にも深く刻み込まれたことと思います。こうやって、田富小学校の伝統が受け継がれていくのだと思います。

私が出会った素敵な子供達の姿

- ①交通指導員の赤池さんから、「布施5区の登校班の子供たちが、朝登校してくるとき、地域の方みんなに挨拶をしていましたよ。」という、うれしいお話を聞きました。学校だけでなく、地域でも気持ちの良い挨拶ができるのは、本当に挨拶の習慣が身につけているからだと思っています。
- ②3年生が総合的な学習の時間に、2年生に向けた粘土節についての発表会の練習をしていました。AさんとBさんは、大勢の前で発表するのが苦手な友達にやさしい言葉をかけ励ましていました。自分からさりげない心配りをする姿に、学校教育目標の「共に学ぶ子ども」に育っていることを感じ、とてもうれしく思いました。
- ③2年生は、国語で「スーホの白い馬」を学習しました。物語の中に「馬頭琴」というモンゴルの民族楽器が出てきます。日本人には馴染みの薄い楽器なので、なかなかイメージを持つことができません。そこで、知人から借りてきた馬頭琴を見せてあげました。子供たちは興味津々で、馬頭琴を見つめていました。「弾いて音を出してみたい」という声が聞こえたので、「休み時間に校長室において」と伝えました。大勢の子がやって来ました。好奇心に満ちた表情がとても素敵でした。
- ④来年度の登校班のメンバーでの集団登校が始まりました。新しい班長、副班長さんは、緊張した表情で歩いています。なかには、2年生で副班長旗を持っている子供もいます。しかし、真剣な表情は、すでに3年生に見えます。責任感が、子供たちを成長させるのだと思います。
- ⑤卒業式の練習に臨む5年生の態度が、とても立派で感心しました。背中をピンとして座っている姿は、とても凛々しく見えました。呼びかけの声も感情豊かに力強い声でした。最高学年になるという意気込みが感じられました。6年生での活躍が、今から楽しみです。
- ⑥「つなげる日記」と「暗唱カード」が終わったと、1年生が見せに来てくれました。「暗唱を聞かせて。」とお願いすると、「アメニモマケズ」や「平家物語」などの名文を聞かせてくれました。興味をもって取り組んだ時の子供の可能性を感じました。
- ⑦4年生は外国語活動で、インタビューに挑戦しています。外国籍児童の2人が校長室にインタビューしにやって来ました。決して流ちょうな英語ではありませんが、大切なのはコミュニケーションをとろうという意欲です。質問を終えた2人の顔は、充実感にあふれていました。

田富小ニュース

3年 総合「粘土節博士になろう」



3月12日に、3年生がこれまで総合的な学習の時間で「粘土節」について学習してきた成果を、2年生に伝える会を行いました。歌や踊り、クイズ、劇、紙芝居など、グループに分かれて準備を進めてきました。2年生に粘土節のことを知ってもらい、来年度の運動会で一緒に踊りたいという願いを実現するために、みんなで内容を考え、練習に取り組んできました。外国籍の子供も日本人の子供もいっしょになって、中央市の文化に親しみ、愛着をもって他者に伝えようとする姿は、まさに田富小学校の特徴である多文化共生が現れた姿だと思いました。今から、来年度の運動会が楽しみです。

